

2020年5月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500hPa 高度をみると、ヨーロッパ西部、西シベリア、アラスカの北で正偏差、ヨーロッパ東部、北太平洋北部で負偏差となった。北大西洋北部～ユーラシア大陸北部では波列パターンが卓越した。200hPa 風速をみると、亜熱帯ジェット気流はユーラシア大陸南部で平年の位置と比べて南寄りを流れた。日本付近～北太平洋では偏西風が平年より強かった。海面気圧をみると、ヨーロッパ中部、中央シベリア、アラスカの北～北米中部で正偏差、カナダ東部、グリーンランドの東、ロシア西部、中国東部、北太平洋北部で負偏差となった。850hPa 気温をみると、ヨーロッパ西部、中央アジア～中央シベリア、アラスカの北、中国南東部～北太平洋中部の北緯30度帯で高温偏差、北米北東部～北大西洋中緯度帯の中部、ヨーロッパ東部で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド洋赤道域の中部～南インド洋熱帯域の東部で活発、南シナ海～フィリピンの東、ニューギニア島の東～南太平洋熱帯域の中部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の後半にインド洋～太平洋～南米を東進した。対流圏上層では、南北半球の広い範囲で低気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、インド洋熱帯域の東部で南北半球対の低気圧性循環偏差、太平洋熱帯域の西～中部で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、赤道域ではインド洋東部を除

いて広い範囲で正偏差となった。南方振動指数は+0.5だった。

世界の天候

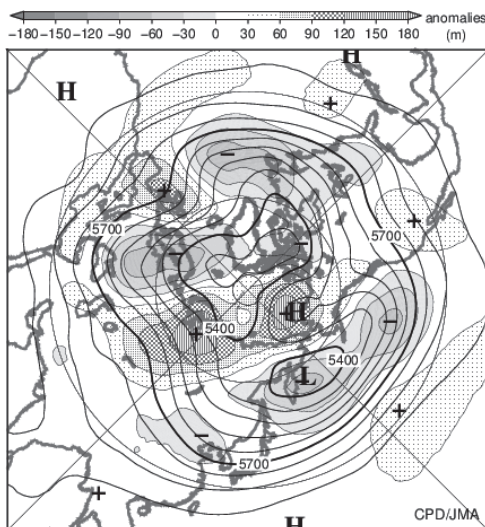
世界の月平均気温偏差は+0.41°C（速報値）で、1891年の統計開始以降、2015年、2016年を上回り5月として最も高い値となった。5月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.74°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

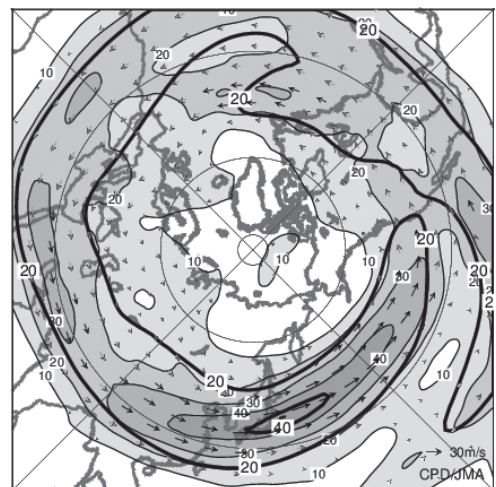
- 中央シベリア北部～中央アジア北東部、東アジア南部～東南アジア中部、ヨーロッパ西部～北アフリカ北西部、中央アフリカ西部～コンゴ共和国南部、コロンビア北西部、ブラジル北東部で異常高温、ヨーロッパ東部～中部で異常低温となった。
- ロシア西部～ヨーロッパ東部、米国東部～バハマで異常多雨、中国南部～マレー半島、ヨーロッパ中部～西部、アルゼンチン北部～チリ中部で異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

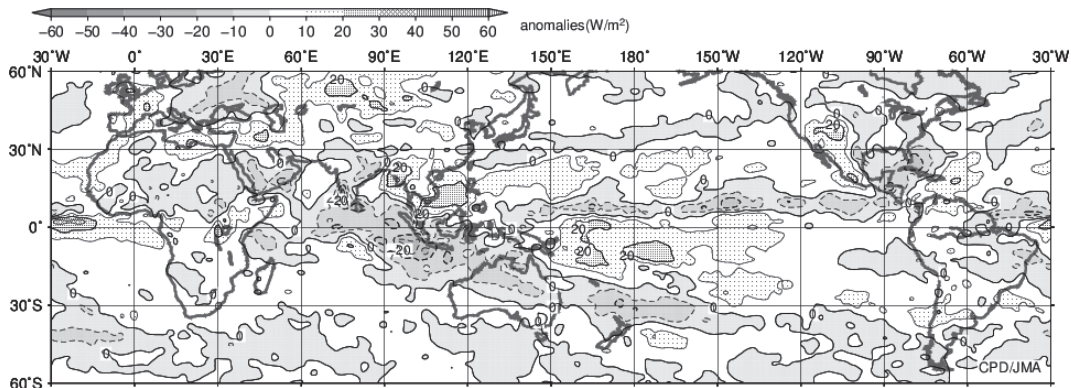
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2020年5月の北半球月平均500hPa 高度及び
 年偏差
 等値線間隔は60m。陰影は年偏差。年偏差は
 1981～2010年の平均値。

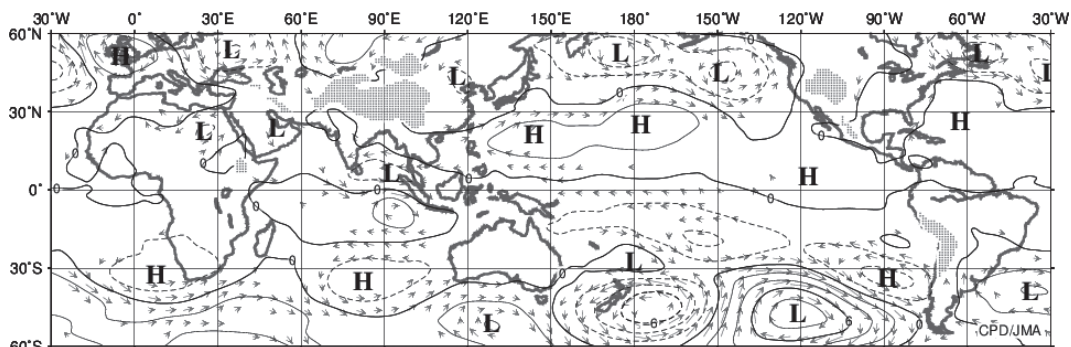


2020年5月の北半球月平均200hPa 風速及び
 風ベクトル
 等値線間隔は10m/s。太実線は平年の風速で等値
 線間隔は20m/s。年偏差は1981～2010年の平均値。

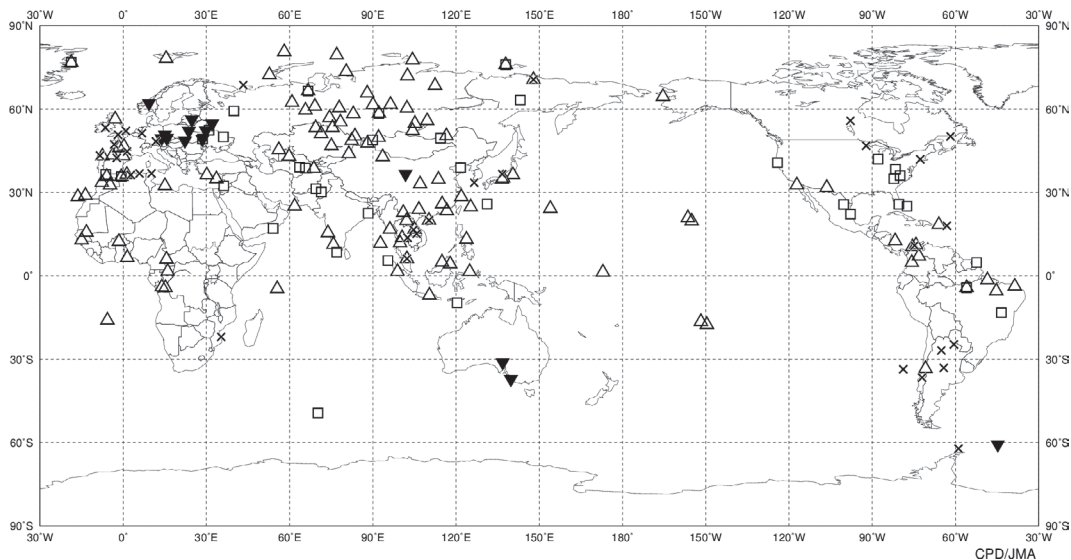


2020年5月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2020年5月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2020年5月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。